

発泡スチロールやブルーシートなどのごみで、ごみ箱の上に「富嶽三十六景」を再現した作品の前に立つ崇城大芸術学部の制作者＝同大



プラごみ 迫力のアートに

崇城大生が学内に展示 「海の汚染考えて」

プラスチックごみによる海洋汚染問題について考えてもらおうと、崇城大芸術学部(熊本市西区)の学生が18日、キャンパス内のごみ箱を、使用済みペットボトルなどで飾り付けた立体アート作品の展示を始めた。21日まで。

視覚芸術コースの授業の一環で、3年生5人が約1カ月半かけ、中庭やカフェなどのごみ箱4個を作品化。プラスチックごみを飲み込む被害が多発しているウミガメなどが泳ぐ海を表現した作品や、葛飾北斎の「富嶽三十六景」を立体化した迫力いっぱい作品などに、学生らが見入っていた。

制作者の一人、赤星瑠奈さん(20)は「多くの人に海の汚染と自分の生活を結び付けて考えてほしい」と話していた。

(堀江利雅)